

令和4年9月22日

埼玉県立大宮武蔵野高等学校長 池田 泰

### 校長より地域の皆様へ

地域の皆様には、日頃より本校の教育活動へのご理解、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

このたび、微力ではありますが、生徒の代表が本校体育館で行われる避難所開設訓練に参加させていただきます。併せて、生徒在校中に地震災害が起こった際は、可能な範囲で避難所開設の初動を支援させていただきます。その申出を兼ねて、10月8日（土）本校において「地域と高等学校による防災学習会」を開催いたします。ご参加については定員がありますので、自治会長様にお取りまとめいただいております。

以下、校長の地域への思いを記します。

これまで、複数の関係者様から、このさいたま市西区は、防災の意識が高い地域であることを伺いました。

対策が最も急がれるのは“水害”で、荒川が氾濫することによる甚大な被害想定はもちろんのことですが、令和元年10月に起こったような内水氾濫は、今後も容易に起こる災害であろうとのことです。

本校の体育館は、災害時には避難所となって地域に開放されますが、原則として地震等が対象となります。（水害の時は、この地域の方はいずみ高校などに避難することになります。）

本校は、学校目標の一つに「地域が誇る学校」を掲げています。学校が地域に誇るのではなく、地域の皆さんが自慢に思うような学校になるという、大きな目標です。これまで、部活動であるインターアクト部や生徒会が、ボランティアなどを通して小さな地域貢献をしてきましたが、もっとたくさんの生徒が、地域のために何かしてほしいと思っています。

本校の陸上競技部は、ときどき地域のゴミ拾いなどをしてはいますが、あるとき、顧問教師から「他にも何かしたい」との申し出がありました。そしてたまたま同時期に、馬宮地区自治会連合会会長様とお話をする機会があり、地震災害時の避難所開設の初動において、特に平日の昼間は人手が足りないという課題があることをお聞きしました。働き手が自宅にいないことと、自治防災（安否確認が最優先）と避難所開設とを同時に行う必要があるからとのことです。

学校の授業中に大きな地震が起こった場合、川越線が不通になることも予想され、生徒の保護者への引き渡しがいかに早く、学校に一時待機する可能性があります。そこで、高校生という発達段階においては、大人からの指示がなくても、災害時に避難所で主体的に行動することができるのではないか、保護者もそれを望んでいるのではないかと考えました。

地域貢献としては、避難所における初動支援として、養生テープを用いた、段ボール・パーティション配置の区割りや、受付業務に協力することが考えられます。教育効果としては、生徒の主体性、誰かの役に立つという自己有用感、家族との話し合いも含めた防災意識、被災された方を思いやる気持ち、これらを育てるのに有効だと考えられます。そして、高校生ならではの力、すなわち知力、体力、共感力、判断力、明るさ、部活動で培ったリーダーシップは、避難所において役に立つに違いありません。

しかし、最も心配される“水害”は除かれ、学校に生徒がいる時、しかもいつ起こるかわからないという限定的な地域貢献です。地域の皆様にとっては、防災におけるほんの一部でしかありませんが、家庭に帰らねばならない者を除く約600人の生徒、教職員が被災者ではなく支援者となり、その心構えをあらかじめ地域の皆様と共有することは、本校にとってもたいへん意味のあることであると思っております。